



代表取締役 坂口嘉之氏

Voice

内蔵プログラムがLEDの光量や養液の供給量を自動制御する植物栽培ロボット「アイティプランター」を昨夏から販売。じわじわとファンが増えています。簡単でいろいろな品種を栽培できると好評をいただいています。

Profile

- 本社/草津市野路東1-1-1
- 設立/2011年
- 資本金/1,250万円
- 事業内容/「アイティプランター」の研究開発、苗栽培方法の研究及び苗栽培事業、市場調査及びテストマーケティング

<http://www.itplants.com/>

株式会社アイティプランツ

内蔵プログラムが光と養液を自動制御する植物栽培ロボット「アイティプランター」。

多様な植物を実際に栽培して「最適な条件」のデータを収集

「誰でも手間いらずで植物の栽培を気軽に楽しんでもらえる」。こんなコンセプトから生まれた画期的な家庭用プランターが、株式会社アイティプランツから昨年発売された。それが昨年度の「しがぎん野の花賞」を受賞した「アイティプランター」だ。高さ、幅、奥行きはそれぞれ約30センチのコンパクト設計。天井部には高輝度のチップ型LEDを搭載。ベース部上面はさまざまな植物の苗を13株セットで

きる栽培面になっていて、下段は窒素やリン酸、カリウムを含む養液を供給するタンクとなっている。LEDの光と養液で植物を育むわけだが、どのタイミングでどれだけ養液を与えらるか、どれくらい光量が最適かは育てる植物によって異なる。アイティプランターの最大の特長は、この難しい光量と養液供給の調整をユーザーに代わって内蔵プログラムがやってくれることだ。

立命館大学びわこくさつキャンパスインキユーバタに同居する同社を訪ねると、壁際に積み上げられた無数のアイティプランターが目を奪われる。ラベンダーやローズマリーなどのハーブ類、ステビアなどの薬草類をはじめとする多様な植物を坂口嘉之社長自らが栽培し、さまざまな栽培条件下での生育状況に関するデータを品種ごとに収集。栽培状況や、栽培のノウハウなどを、自社Webサイトのクラウド・ガーデンからユーザーに配信している。

「植物の生命力」の探求が最初のモチベーションだった

購入者が手をかけなくてもお気に入り植物はすくすく育つ。さらに専用ア

プリをダウンロードすれば、温度や水分量などの栽培データをパソコンに自動転送し、管理することもできる。「自律的に判断・制御するので植物栽培ロボットと呼ばれる」。坂口社長によると、アイティプランターはもともと市販を意識せず、植物の「生命力の秘密」を解き明かすために開発したものであったようだ。

「植物は環境変化に耐える生命力を持っているが、どの外的要因がどの遺伝子を発現させるかは不明な部分が多い。その仕組みを解明することができれば、遺伝子組み換えに頼らずに強い植物、おい

しい野菜、機能性を持つ植物を人為的につくれる。それには天候や環境に影響されない室内栽培でさまざまな外的要因の変化を試してみるのが一番。理想的な栽培装置を追求するなかでアイティプランターが生まれた」。

試みに展示会に出展してみると興味を持った企業が続々と参集。商社や照明器具メーカーなど多様な業態の10社が協力企業として「売れる商品」へのブラッシュ

アップや量産化に関する課題の解決、販路開拓などを支援してくれた。

ユーザー数を伸ばす決め手は「苗とコンテナ」の豊富さ

実は工学博士の肩書きも持つ坂口社長はコンピューターシミュレーションが専門だ。繊維業界で素材の物性解析やシミュレーションソフト開発に取り組んできた。「長年ソフト開発に関わってきたが、その領域



苗ポットとして約80品種を取り扱っている



水気栽培は、細かな根がびっしりと発達するので植物が元気に育つ

だけでは今後は苦しいと感じた。植物に惹かれて2009年にアイティプランツを旗揚げしたが、それはハードとソフト、コンテナの3つが重なる領域のビジネスになると確信したからだ。結果としてアイティプランターは理想的な事業モデルにたどり着けたと思う」。

坂口社長が重視するのは「なるべく豊富な品種の苗を供給し続けること」だ。プランター本体と制御プログラムと

いうハードとソフトがいかに魅力的でも、苗というコンテンツが充実していなければユーザー数は伸びない。苗の供給は協力企業の1社が担当。土を使わず発芽させ、扱いやすい苗ポットにして購入者へ発送する。「アイティプランターを軸にした新事業」を始める協力企業は他にもある。「組織力に乏しい当社の力だけではアイティプランターを事業化できなかったら、ベンチャーの事業構築のアプローチ例として参考にしてもらえれば」と坂口社長。

インテリアや教材用などとしてユーザー層はまだ広がる

昨年の夏に発売してから700台ほどを販売。現在供給中の苗は観葉植物、ハーブなど約80品種。養液の量をコントロールして植物の根を空気に触れさせることのできる「水気栽培」であるため、水耕栽培

では難しいニンジン、ゴボウなどの根菜類も土なしで育てられる。購入者は「余暇時間が豊富な退職後の男性」が中心というが、室内に癒やしを添えるインテリアや、子どもにも植物の魅力を教える教育用としてなど、用途やユーザー層を広げる余地はまだある。「協力企業の中には教材化に取り組んだり、海外販売に挑む企業もある。当社ではパソコンとの接続なしで制御プログラムを自動インストールできるような無線LAN機能を追加中。これでデジタル苦手世代にも使ってもらえる」。

坂口社長の今後の夢は、増え続けるユーザーのデータも活用し、植物の生長情報をさらに蓄積して植物工場をはじめとした植物生産産業や農業などに貢献すること。データの自動測定機能を医療など別の分野へ応用する夢も追い始めた話す。



最大13株が育てられるアイティプランター